



短期留学参加者体験談

リヨン・カトリック大学（フランス）

《2年 国際交流学科グローバル社会コース 2024年度参加》

今回の留学を通して、語学力が上がった他に、フランス人に対する考え方が変わりました。留学前は、フランス人はプライドが高く、冷たい印象があると感じていましたが、実際にフランスの街中で出会った人々は、フランス語を流暢に話せない私にわかりやすい単語で話して下さるなど、とても丁寧に接して下さり、フランス人は親切であるという印象に変わりました。そして、このことから、偏見を持たないことや、現地に行って多くの人と関わることの重要性を学びました。

《2年 哲学科 2024年度参加》

今回の短期留学では語学はもちろん、それ以外の多くのことを学べたと感じています。まず、語学面では、学校の授業でフランス語を学んだり、現地の人たちと交流したりすることによって日常でよく使うフレーズを知ることができました。今振り返ると、教科書で学ぶフランス語とはまた少し異なる、生きているフランス語に毎日触れることができたのは大変貴重な機会だったと感じます。また、学校の授業内容は一年生のときに学んだものがほとんどだったので、良い復習になりました。

次に、この短期留学で私は精神的にも成長を感じることができました。具体的には、常に前向きな気持ちを持って、様々なことに挑戦しました。もちろん失敗は多くしましたが、そのたびに前向きになる努力をしました。積極的に行動することができたため、この短期留学に関する深い後悔はありません。失敗を恐れずに様々なことに挑戦し続けることができて本当に良かったです。私は、常に前向きな気持ちを持って現地の人たちと交流することで文化や語学などの様々なことを学ぶことができました。

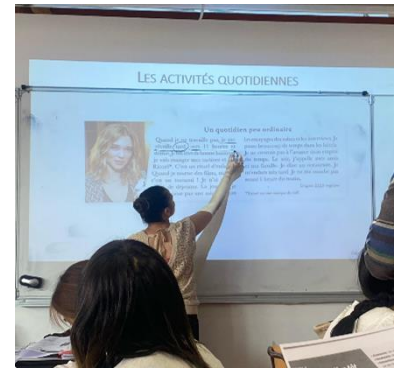
《4年 哲学科 2023年度参加》

今回の参加者で、私だけが、第二外国語がフランス語ではありませんでした。そのため、知識が無いに等しい言語を学ぶということで、不安がありました。しかし、現地について授業が始まってみると、そのような不安は、不要だったなと思いました。また、観光面でも、フランスはもちろんのこと、スイスやイタリア、ドイツ、イギリスにも行くことができるので、とても充実していました。これは、ヨーロッパ留学ならではの点の一つだと思います。アクティビティーで、国同士が地続きのため、スイス領になったり、フランス領になったり、ドイツ軍が来たりなどの文化を持っているアヌシーに訪れました。お土産はほぼスイスで、現地の人々に対して、私は、イタリア人のような印象を受け、しかし、フランスという点がとても興味深かったです。山を一つ越えれば他国になっているため、仕事はスイスでしているが、住所はフランスなどということも多いらしく、日本人には、馴染みのない感覚で面白いなと思いました。また、ヨーロッパ史で出てくる、国民性としての意識が薄く、市民としての意識が強いということの理由を身をもって経験できた良い機会でした。このような、体験こそ、現地を訪れなければできないことで、留学の醍醐味だと思いました。

《2年 心理学科 2023年度参加》

日本との街並みの違いに驚きました。フランスは日本と違い地震が起こらないからこそ古い建物を綺麗に残されていたことと、隣の家とびったりくっついて建物が立っていたのが印象的でした。また、フランスに短期滞在して日本に住んでいては気づけないような日本の良さ（トイレや衛生面など）に気付かされました。食に関しては、やはりパンがとても美味しくリーズナブルで様々なパンを食べることが毎日楽しみでした。フランスには日本の漫画の専門店があり日本文化が愛されていることも印象的でした。

研修校の授業はとても分かりやすく、分からなければ英語で説明して下さるので困ることはありませんでした。また、発音も細かい部分まで繰り返しやったださるので上達していると感じることが多く楽しい授業でした。違う国から来た留学生とペアワークすることもあり様々な国の方と交流できました。さらに座学だけでなく、美術館や市場に行くこともあり文法だけでなく文化に触れることができる授業でした。



※写真はすべて 2023 年度参加者提供

《2年 国際交流学科異文化コミュニケーションコース 2021年度参加（オンライン）》

フランス語をフランス語で学ぶということがとても新鮮で印象的でした。授業はほとんどフランス語でしたが、少し英語を使って説明して下さり理解しやすい授業でした。オンラインでのプログラム実施ということで日常生活を送りながら海外の授業を受けられることがメリットだと感じました。自分の今の語学力がどの程度なのかということが分かった為、今後の語学勉強の方法が明確になりモチベーションに繋がりました。

《2年 国際交流学科 2019年度参加》

全て初めてで分からないことばかりだったので、1人でリヨンに行くのは不安でした。しかし、現地でフランス人だけでなく、他の国から来た学生や日本から来た他大学の学生と仲良くなるとその不安は消え、様々な文化の違いや言語を学んでいくうちに国際的視野が広がりました。フランス語のみの授業は大変でしたが、最後は先生のおしゃっていることが分かるほどに成長しました。フランス人ははっきりと自分の意見を主張する、日本のように忖度するということがあまりないということを、フランス人の友人から学びました。

授業前にクラスのレベル分けテストがあり、自分のレベルにあったクラスに配属されました。授業は、ほぼフランス語でどうしても分からない時は英語で先生が優しく指導していただきました。日本

とは違い、グループワークが多く黒板に書いてあることを暗記というよりは、皆で協力して答えを導き出すという授業形式でした。

パリ・カトリック大学（フランス）

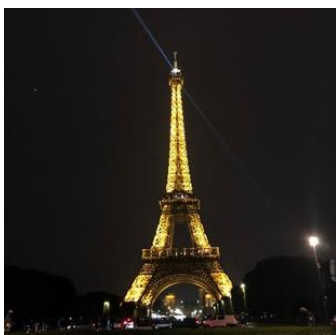
《1年 基礎課程 2019年度参加》

週5日の授業で単語や文法、発音などを学ぶことができ、語学力が向上しました。テストもあり、フランス語の勉強を頑張る事ができました。

行きの送迎車の中ではカーナビが何を言っているか、送迎してくれた方がなんと言っているか分からなかったのですが、帰りの送迎車の中では受け答えもスムーズに出来、カーナビが何と言っているのか分かり、感動しました。授業やホームステイを通して自分が昨日どこに行ったか、これから何をするか、何を食べに行くかなど日常会話が劇的に上達しました。留学中、バスを使用するとき年配のフランス人の男性から話しかけられ、学校で習った文章などを使って会話をしていると、勉強頑張ってねとフランス語の本を頂いたことがとても嬉しく、大切なお土産の1つになりました。その本を見るたびに留学中のことを思い出します。

《2年 国際交流学科 2019年度参加》

語学学校でフランス語を学ぶだけではなく、ホームステイをすることで、フランスの文化を知ることができました。ホームステイ先のお家の方とコミュニケーションを積極的に取ることで、観光ではどこを訪れた方がいいのか、フランスのどのような点がパリに住む人にとって魅力的なのかなど現地の人にしかわからない知識や意見を教えてもらえました。お家の方との会話は、私のフランス語の能力を向上させるのにとっても良い機会であったと感じています。今回の短期留学で一番印象的だったのは、語学学校での他国の学生の授業の受け方でした。私のクラスは様々な国の学生がいて、学生によって授業に取り組む姿勢も異なりました。その人の国籍がわかると、その人の姿勢と私のその国に対するイメージがどこかリンクする点があり、とても興味深く感じました。



※写真はすべて2019年度参加者提供